千年ファインダー

成瀬　映

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
千年ファインダー

【Ｎコード】
Ｎ４６５５ＢＡ

【作者名】
成瀬　映

【あらすじ】
いま現在を生きる人々には様々なストレスがあります。
同じ境遇にありながらも「上手に生きる人」と、「そうでない人」がいます。
そのため、この世を「上手に生きる」ためのマニュアル本などが氾濫しています。それらのマニュアル本を全て読破することは不可能です。ではいったいどれを読めば正解なのでしょうか？いえ、はたしてそれは、万人にとっての正解となるのでしょうか？
数日前に十五年勤めた会社に辞表を叩き付けた佐倉千里は、自分の

生き方に疑問を抱いてしまいます。それは仕事について、家庭について、そして人生について……

彼の運転する車はやがてY字路に差し掛かり、右か左かの判断を迫られます。

そこで彼の選んだ道とは？

そして彼が望んだこととは？

ひとりの中年男性がふと立ち止まって家族のあり方と自分の生き方を見つめ直す、ちょっと不思議でおかしなホームドラマです。

プロローグ

『もしも願いが叶うなら……』

そんな幾多の詩や歌に使われているどこかで聞いたフレーズを呟いた。

……はずなのだが、それは声には出なかった。

聞こえてくるのは車のエンジン音と頭の中全体にエコーする甲高い耳鳴り、そして口から漏れ出る不規則で擦れた呼吸音だけだった。

ハンドルに突っ伏した頭を上げたが真っ暗だ。

全身から込みあがる痛みを堪えてゆっくりと力を込めると、左目の視界がボンヤリと開いていった。

靄（もや）掛かったフレームに映るのは、Ｙ字路でひどくひしゃげた分離帯の鉄柱にめり込んだ愛車の無残な光景だった。

なんてことはない普通のＹ字路で、私は右にも左にもハンドルを取れずにそのまま中央の分離帯に激突したのだ。

右へ行くべきか、それとも左へ行ったほうが良かったのか。

今の私にはそれすらも決断することができなかったのだ。

とりあえず車から降りようと考えたが、全身に力が入らない。

しかたがないのであっさりと諦め、出来る限り大きく息を吐き、そのままシートに深くもたれ掛かった。

もしかするとガソリンとか漏れてはいないだろうか。

引火したら爆発するかもしれないな。

ニュースになったらどんなふうに報道されるだろうか。

『半月前に会社に辞表を叩き付けた無謀中年男性（無職３７）の自動車が中央分離帯に突き刺さったまま大爆発！』

とか？

ははは。笑えない。
私という人間は最後の最後まで気が利かないな。
まぁ、結局そういう人間だったということだ。何を今更……
部下達にも影で散々言われてた事だろうに。
今の世の中、『空気を読む』といったスキルがあるらしい。
そしてそれはとても重要なのだという。
いったいそれは、どの資格を取れば取得できるのだ。
朝刊の広告にでも挟まっているのだろうか。
バカバカしい……
薄く乾いた笑いを浮かべてみたが、娘に言わせると気持ち悪いらしい。

強く生きることだって大切なことだ。
そのためには人の都合ばかりなんて伺ってられない。
そんなことをして舐められたり、つけこまれたりでもしたらたまったものではない。
途中にある過程は問題じゃない。
その結果が全てなんだ。

ふと助手席のほうに目をやった。
助手席に置いていたはずの電気屋の紙袋は激突の衝撃で吹っ飛んだのだろうか、その足元に落ちていた。
さっき買ったコレのせいかもな。
私らしくないことをしたもんだ。

気がつくと先程まで喧しいほどに鳴り響いていた耳鳴りが聞こえなくなっていた。
それどころか車のエンジンの音さえ聞こえてこない。
むしろ何も聞こえない……
微かな視界も靄に覆われていき、全身の感覚が徐々に消えていく

のが解る。
　車よりも前に私が先に終わるのかな。

　いくつもの決断の全てに後悔はしない。
　私とはこういう人間なんだ。
　今の自分は誰のせいでもない。
　私が自分の頭で判断し、私が自分の足で進んだ。
　これが自己責任の結果として存在する、どうしようもないくらいに『佐倉（さくら）千年（ちさと）』なのだ。
　だからこそ、私はこんな結末であれ結果を受け止める。

　だけど、
　だけれど、もしも……

『もしも願いが叶うなら……』

「せめて、せめて大切な人の気持だけでも……　もっと理解できる人間になりたい……」

　自我の存在も感じないほどに真っ暗で無音な世界に、その頼りない言葉は深く静かに響くとともに、私の意識は霧散した。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4655ba/

千年ファインダー

2012年1月12日19時55分発行